

飯田の老舗

No. 184

付加価値のある看板を

明治35年
創業

上郷別府の里見看板店

高度成長期による自動車増加で「車両へ文字書き」という大量の受注を得て会社の基礎を築き、その後も時代の流れによる環境

変化に対応しながら、業を継ぐ。昭和初期に地元・飯田での看板創りて信頼と実績を構築してきた。南信州で一番古い看板屋だ。

富山県魚津町出身の初代創業者、里見豊吉氏は明治35年ごろ飯田に移り住み、現在の大通一丁目で物書きを始めた。細かい文字が得意だったことからトタン看板や表札の仕事を請け負い生計を立てた。その息子喜一氏も達筆で2代目として家

業を継ぐ。昭和初期には飯田下伊那地域に看板屋が3軒しかなく、仕事量も増加。自転車を名古屋や大阪まで塗料の買い出しに行くこともあった。終戦後は軍服など軍需用品の販売が各地で行われ、その立看板も担った。飯田大火後の昭和25年には東和町3丁目に自宅兼作業場を移転。昭和30年代になると高度成長期とともに自動車普及し始め、

自動車に社名を文字入れする看板業が大きな収入源となった。多いときは1日20台を手掛け



里見則行社長

自動車に社名を文字入れする看板業が大きな収入源となった。多いときは1日20台を手掛けた。独学で文字書きを極め、県内でも有数の職人として大成。昭和42年に現在の上郷別府に工場を移設すると、44年に有限会社「里見看板店」を設立。社里見看板店を抱える数多くの指名客を抱えると同時に何人もの弟子を育て上げた。しかし車への文字書きが売り上げの7割を占めた時代も徐々に変わ



社名を文字入れする2代目・喜一氏（昭和30年ごろ）

地域に根を張る「創業100年」の商売

(有) 里見看板店

所在地 ◆ 飯田市上郷別府3365-5
設立 ◆ 昭和44 (1969) 年 5月 8日
創業 ◆ 明治35 (1902) 年
営業種目 ◆ 各種看板企画・製作・施工
代表者 ◆ 代表取締役・里見則行
従業員 ◆ 4人
資本金 ◆ 300万円
電話 ◆ (0265) 22-1879
FAX ◆ (0265) 24-7726
Eメール ◆ satomikanban@sea.plala.or.jp

貌を遂げていく。4代目・現社長の則行さん(55)が後継者として入社したところからは、それまでの塗料と筆の筆からパソコンやカラーフィルムを使った文字貼りへと仕事内容が移行。さらに大型インクジェット出力による看板製作や電球からLED化へと変化し、それに呼応するかのようにならうに各種看板事業にも力を注いでいくことになる。

その転換期にあつては、則行さん(29)だったが、東京の専門学校で

「景観条例の施行で景観を損なわない看板の設置が義務付けられ仕事環境も厳しさを増しているが、看板業を通じて地域社会に一層貢献できるように努めていきたい」と則行さん。祐輔さんも「効果の高いメディアとして作り上げたい。やりがいはある」と目を輝かせる。



現在の里見看板店

成までのトータルプランニングシステムを構築。イルミネーション設置など新たな分野も開拓した。

「景観条例の施行で景観を損なわない看板の設置が義務付けられ仕事環境も厳しさを増しているが、看板業を通じて地域社会に一層貢献できるように努めていきたい」と則行さん。祐輔さんも「効果の高いメディアとして作り上げたい。やりがいはある」と目を輝かせる。